

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400176	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 のぼりと		
所在地	(〒214-0014) 川崎市多摩区登戸658-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年11月9日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>花物語 のぼりとは、小田急線・JR南武線の3駅が利用可能で、アクセス良好な場所にされており、利用者様、ご家族様のアクセスが良好です。 平成23年4月1日開設。認知症対応型共同生活介護と、小規模多機能型居宅介護の複合施設です。 共同生活でありながらも、お一人お一人の“個”を尊重し、自由に生活していただくことをモットーに、その人らしく、本人の自由を尊重した生活お過ごしいただけるよう、職員一同励んでいます。ご利用者様のご自宅だと感じていただけるよう接しております。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年12月4日	評価機関 評価決定日	平成27年5月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> 当事業所は、登戸駅から徒歩約14分、小田急線を含め3駅が利用できるアクセスの良い立地にある。建物は木造2階建てで同法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。玄関を入ると、事業所名に因み生花がかざられ、壁に季節の花のステッカーが大きく貼られている。リビングや廊下の壁にも花や鳥のステッカーが飾ってある。華やかな雰囲気作りをしており、調査当日はクリスマスツリーが飾られていた。開所して3年で、現在は要介護度の低い利用者が多い。</p> <p><b>【理念に沿った支援】</b> 「安全、安心、清潔」を理念として、医療の充実や施設内の清掃を重視し、利用者が安心して暮らせるようにしている。また、「気づき、考え、行動する」を職員の今年度の目標に挙げている。食事をチルド食に変えることで職員が利用者に係わる時間を多くし、利用者の思いの把握に努め、毎日を元気に笑顔で過ごせるように取り組んでいる。</p> <p><b>【利用者の活性化】</b> 運営推進会議で出された、「利用者を活発化して欲しい」との要望に応じて、今年7月から、避難訓練を兼ねて外に出る機能訓練を始めた。毎朝、車いすの人を含め全員、玄関前まで出て、その後少人数に分けて近隣を20～30分散歩している。また、階段の登り降りや、天気の良い日には廊下で歩行訓練を行なっている。看護師のアドバイスの通りに腹圧が上がり、便秘の解消にもつながっている。外出を躊躇していた利用者も外にでることの自信が持てるようになってきており、家族からも、利用者の表情が明るく、柔らかくなったとの好評を得ている。毎日の訓練により、いざと言う時の避難のシミュレーションができ、これも職員の自信につながっている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語 のぼりと
ユニット名	1階グループホーム

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が、笑顔で穏やかにお過ごしいただけるよう、そのお気持ちを考えながらゆっくりとかかわれる時間を大切にしています。	開設時からの理念は「安心、安全、清潔」で、安心して暮すには安全で清潔な施設づくりをすることが重要と考えている。今年度の職員の目標として「気づき、考え、行動する」を挙げて、理念をユニット事務所のドアや玄関に掲示し、職員は毎日唱和し日々確認して利用者の介護に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地区の夏祭りの参加や、近隣の梨園など毎年ご利用者様と一緒に参加させていただいております。施設の行事の際など近隣の方にお声掛けをさせていただき参加を呼び掛けています。	登戸台和町会に加入し、回覧板で情報を得て、行事に参加している。歌や踊り、傾聴のボランティアが来所している。専門学校の実習生を受入れている。2ヶ月に1回、事業所で「健康祭」を行ない、健康相談や食事の提供をし、地域の方達が毎回参加して利用者とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議の時や近隣住民の来設時に説明会などをおこなっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を反映し、職員がご利用者様との関わり時間を持つ為に食事の提供について検討し方法などを変更しています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、健康祭の後に開催している。区役所職員、登戸地域包括支援センター職員、多数の家族が参加し、事業所の運営報告を行い、意見交換している。家族から利用者の日常生活の活性化を望む声に応じてレクリエーションや歩行訓練を行っている。	運営推進会議は定期的開催されています。町会関係者や民生委員等地域の方の参加を働きかけ、地域の情報を得たり、さらに地域に貢献していくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際やグループホーム連絡会の場などで、現在の施設の情報をお伝えしています。	区役所の高齢者支援課に運営推進会議の議事録や外部評価の報告に出向き、情報交換や相談をしている。区から入居に関しての相談を受けている。グループホーム連絡会に参加して情報交換をしている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員会議の中で勉強会を開いています。	職員には身体拘束と精神的な拘束について研修を行ない、しないケアを徹底している。職員に対して、どのようなことが身体拘束や虐待になるかアンケートを実施し、結果をもとに個人面談で話し合い、自ら気付けるように働きかけている。また、医師が精神薬や催眠剤を勧める場合にも相談のうえケアの工夫で使用を最小限に留める対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、書類を確認しながら事例検討を含め、どういう場合が虐待になりうるケースなのかを話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設に入所された時より対象のご利用者様がいらっしゃった為認知症ケアを行う上で、必要な知識として、勉強会をひらいたりし、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	終末期ケアや、医療行為に関する疑問を具体的に説明しています。また状態の変化の際などで施設でできる事とできない事など今後に関する話しなどをおこなっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご利用者様の意見の中で歩行機会の増加やレクリエーションの充実があがった為現在では朝・夕の歩行練習とレクリエーションを活発に取り入れています。	家族が参加する運営推進会議の折や、面会時に意見・要望を聞取っている。また毎月、請求書に利用者の写真、管理者からの状況報告、利用者自筆の手紙などを添えている。家族からの返信に、事業所に対する要望があれば、採り入れて、レクリエーションの充実や機能訓練の実施に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中で、若しくは、カンファの中や会議の中で意見の検討を行いながら、随時取り入れています。その他にも目安箱を設置したり職員面談の際などに確認しています。	職員の全体会議、フロア会議や勉強会をそれぞれ月1回行ない、管理者は職員の意見を聞いている。職員控室に目安箱を設置し、意見・要望を聞き取り、業務改善につなげている。必要な場合は本部が対応することもある。有給休暇の取り方や備品の購入についての意見にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減について、又は、契約社員や社会保険の加入について、希望等を聞き入れ、意欲や力（知力・体力・精神力）のあるものには、リーダーやその上を目指してもらうよう、伝えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修に対象職員は参加できるよう調整しています。また、疑問点などがある場合は個別にて対応しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	多摩区グループホーム意見交換会に参加し施設間の行き来や電話による相談によりサービスの向上を図っています。介護いきいきフェアにもお手伝いとして参加し交流しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談の時や、ご家族様との面談の時にご家族様や本人に要望や不安ごとを聞き、入居後も、随時、傾聴を行ってケアに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に現在のご本人様の状態や不安な事の聞きとりを行っておりアセスメントにおとし職員と情報を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族の物理的精神的環境を考慮し、サービスにつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のADLに応じご本人様が無理なく出来る事などをご本人様と話し手伝っていただいております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い方への対応について、声掛けの仕方を相談したり、ご家族様の精神面の負担にならないよう御互いの状況を把握し本人と家族の要望に応じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に電話があった際に、聞こえるように、わかるように、コミュニケーションの支援を行っています。面会などきていただき以前と同じ交流をしていただいています。	家族や友人が訪れた際には居室にお茶を出し、歓談して貰っている。家族とお墓参りや行事に出かけたり、正月には自宅に外泊や日帰りをしたりする利用者がいる。電話や手紙を取次いだり、年賀状を送る支援をしている。毎年行く梨園が馴染みの場になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階2階の合同イベントや歩行訓練の際に他フロアとの交流にも努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方は、家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っています。 また電話にてご連絡させていただき近況などを確認する場合があります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中や、定期的にアセスメントを行い、現在の希望や意向を確認しケアプランに組み込んでいます。	職員は日頃の会話から思いを聞いている。口数の少ない方からは表情から汲取ったり、入居時のアセスメントや家族からの情報を取り入れたりして、支援につなげている。七夕の短冊に「マグロが食べたい」とあったため、出前の寿司をとって喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も、利用していた担当ケアマネジャー、及び、家族や本人から情報をえて、今までの生活を継続できるよう習慣になっている事などは継続していただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時や状態変化の際にもモニタリングや評価を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やご家族様との面談、各フロアでの会議やモニタリング、アセスメントを行い、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	入居時のアセスメントをもとに介護計画を作成している。月1回の会議でカンファレンスを行なっている。介護計画と医療情報の1週間分を個人記録にまとめてフロアに置き、職員はケアに活かしている。管理者は、ケア記録から計画の実施状況を確認している。3か月ごとにモニタリングを行ない、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書の見直しを行っています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の関係性や今までの生活暦等を考慮しています。かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整も図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の会員になっており、回覧板や町内会から情報を得ています。盆踊り大会への参加や、清掃活動等に参加することができました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時など医師が変更するが今までの医師に継続して診ていただき本人やご家族様が納得された段階で施設の訪問医へ変更しています。	訪問医による往診は、月1回の利用者全員の往診と、1日につき少数の利用者の診察がある。緊急時は電話で往診医の指示を受け対応する。全体の往診時には薬局の薬剤師が来て服薬の管理を行なっている。整形外科などの専門医の受診は家族が行ない、家族から診療情報を聞き往診医に伝え情報を共有している。法人の看護師が週2回、健康管理や利用者・職員からの相談対応をしている。訪問歯科は週1回、希望者10名に対し口腔ケアや治療をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中ですらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りの際やケアの中で看護師としての意見を聞きケアの方法など相談し、個人記録に記入し、情報の共有を行い、受診や看護につなげていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的に病院にお伺いし現在のご本人様の状況を相談員の方やケアマネージャーの方と医師、家族様と相談させていただき一番適した環境の移行への話し合いなどおこなっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象の方がいらっしゃる場合は、その方にあった、急変時対応マニュアルを作成し、台所に掲示しています。又、どのような状態の時を悪化とするのかを明記し、職員に周知しています。	入居時に看取りの指針を説明して利用者や家族の希望を聞いている。体調の変化や急変時には協力医が家族に説明し、医療機関を紹介したり、条件が整えば看取りを行なっている。看取り時には、週5日看護師が訪問し、医師の指導のもと家族の協力を得て、2名の看取りを行なった。職員を対象に、医師、看護師や管理者が講師となり看取りの勉強を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の中で急変時の手当や確認点などを看護師より説明し各所連絡手段などについては研修という形で説明しております。疑問点や不安点などを抽出し個々に説明しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの確認、定期的な防災訓練を実施、毎日の歩行訓練時などに避難ルートを歩いたりし確認しています。地域の方にも災害時などの協力体制をおこなっています。	防災訓練は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で消防署の協力を得て年2回行なっている。12月26日には消防署立会で夜間想定避難訓練を実施する。非常通報ボタンを押すため、近隣にはポスティングで知らせている。非常災害用の水と食料は3ヵ月程度を備蓄している。	災害用備蓄や備品は、持ち出しが困難になることを考慮して敷地内に倉庫を設置する予定です。それに伴い備蓄品の整理や、チェックリストの作成を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。その方の生活暦や性格を考慮し、その方に合った言葉掛けや対応を心がけ自立支援のもと生活を支えていく事に気をつけています。タバコが吸いたいという利用者様にはその方の生活暦や性格を考慮し、吸っていただいております。ご本人様達の性格を考慮し声掛け等変えております。	職員は接遇について入職時の法人研修や、事業所内ではOJTで学んでいる。個人情報保護については誓約書を提出している。利用者には尊敬の念をもって接することを職員に徹底している。管理者は2～3か月ごとに職員に自らの気づきを促す手紙を出して指導している。個人情報を含む書類は個々の持出し用の袋に入れ、キャビネットに施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	働きたいのか、散歩をしたいのか、または、のんびりと過ごしたいのか、伺いながら、行動を共にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を選ぶ際には、できるだけご自分で選んでいただいております。理美容に関してもご本人様から希望があった際は業者に連絡し切っていただいております。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>簡単な調理や、後片付け、イベント時の調理を手伝っていただいています。盛り付けや配膳などご本人様の負担にならないように手伝っていただいています。</p>	<p>今年度9月から介護の時間を多くするため、主食と汁物は職員が作るが、副食は外部委託のチルド食を湯煎して提供している。利用者は盛り付けをしている。おやつにホットケーキを作ったり、誕生日や行事食に利用者の希望でちらし寿司などを提供している。出前やテイクアウトをよく利用している。食事中は2名の職員が見守りや介助をしている。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な飲水量、食事摂取量が確保できるよう、ご飯の盛り付けの調整や声掛けをおこなっています。その日によって変わる場合もありますのでご利用者様に配膳時に確認しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔ケアの注意点など訪問歯科が来た際などに確認し本人の口腔ケアに必要な部分などをお手伝いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ADLにより定時に声掛けをする方、パットを交換する方完全に自立の方などご利用者様にあった対応しております。	個人記録の排泄チェック表からパターンを把握して、声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している。昨年からは川崎市の「おむつ0作戦」を実施し、少し早めの誘導を心がけたところ失敗が少なくなった。パットをリビングに置き、利用者が取ってからトイレに行くようにし、歩くことに力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量の確認や日々の歩行訓練などをおこない、ヨーグルトなどが効果があるご利用者様についてはご家族様に持ってきていただいております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日はきまっているがその日によって入りたい日や入りたくない日もある為お声掛けする際に確認し入浴していただいています。	入浴は週2回が基本で、午前中に1日3名が入る。毎回湯は交換している。シャンプーなど好みのものを使う方もいる。同性介助の希望には配慮している。柚子湯、菖蒲湯のほか、ミカンの皮を干して湯に入れることもある。気持ち良く入浴できるよう全ての利用者に対し浴槽に入る支援をしている。風呂場、脱衣室に暖房乾燥機を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者が、自由に居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、その時の状態観察を行ったり、本人に聞いてから、休息の支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が記載した往診記録の確認、又は、個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行なっています。状態など変化した際は往診医に連絡し薬の変更がある場合があります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたむ仕事などや食事の時の盛り付けなど馴染みのある事を積極的に手伝っていただいております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日など1回2～3名で近隣を散歩しております。普段いけない場所に関してはイベントとして企画し外出を楽しんでいます。	毎日の歩行訓練を兼ねた避難訓練の後、天気が良ければ毎日3名ぐらいずつ20～30分の散歩に出かけている。季節を感じられるように、隣の駅近くでの桜見物やバス利用でのバラ園見学、紅葉の時期の散歩に出かけている。日用品やたばこの買い物に近くのスーパーマーケットやコンビニエンスストアに出かけている。家族と頻繁に外出する方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、施設でお支払いして、後ほどご請求させていただき立て替え金制度を利用しています。必要に応じてお金を持ちたい方に関しては、自己責任で小額のみお持ちいただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に帰りたいという訴えがあった時や用事があったときには、家族了解の下、電話ができるように支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	週に1度花を購入しその時期にあった花を飾っております。季節を感じていただく為に共有スペースなどの飾りつけもおこなっております。1階のテラスで休めるよう手作りの椅子などおいております。	小規模と共用の1階の玄関にはクリスマスツリーが飾られ、壁には季節の花のステッカーが大きく貼ってある。リビングにも花や鳥などの柄のステッカーや切り絵が沢山貼られ、季節感や華やかな雰囲気を演出している。テレビに向けてソファやカウチなどを置き、寛げるようにしている。リビングの洗面台の鏡に花柄のカーテンをかけ、映りこみを隠す配慮をしている。台所の鍋に湯を沸かして加湿し、空調や清掃に気をつけ過ごしやすいようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fの入居者と気の合う2Fの入居者のところへ、遊びに行き、気分転換を図っています。 GHの相談室も場合により使用しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた、食器や家具を居室におき、なるべく、自宅に近い感覚で過ごしてもらっています。	居室はゆったりとしている。エアコン、照明、木製の介護用ベッド、クローゼットが備えつけられている。防災カーテンのほか、今まで使い慣れたものを持ってきて貰っている。鏡台、整理ダンス、テレビ、時計、化粧品などを置いてあり、過ごしやすい、自分の部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の力量に合わせて、家事の継続を行っています現在では洗濯物干しやたたむ事などを手伝っていただいています。		





事業所名	花物語 のぼりと
ユニット名	2階グループホーム

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が、笑顔で穏やかにお過ごしいただけるよう、そのお気持ちを考えながらゆっくりとかかわれる時間を大切にしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地区の夏祭りの参加や、近隣の梨園など毎年ご利用者様と一緒に参加させていただいております。施設の行事の際など近隣の方にお声掛けをさせていただき参加を呼び掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議の時や近隣住民の来設時に説明会などをおこなっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を反映し、職員がご利用者様との関わり時間を持つ為に食事の提供について検討し方法などを変更しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際やグループホーム連絡会の場などで、現在の施設の情報をお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員会議の中で勉強会を開いています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、書類を確認しながら事例検討を含め、どのような場合が虐待になりうるケースなのかを話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他ユニットですが、施設に入所された時より対象のご利用者様がいらっしゃった為認知症ケアを行う上で、必要な知識として、勉強会をひらいたりし、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	終末期ケアや、医療行為に関する疑問を具体的に説明しています。また状態の変化の際などで施設でできる事とできない事など今後に関する話しなどをおこなっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様やご利用者様の意見の中で歩行機会の増加やレクリエーションの充実があがった為現在では朝・夕の歩行練習とレクリエーションを活発に取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中で、若しくは、カンファの中や会議の中で意見の検討を行いながら、随時取り入れています。その他にも目安箱を設置したり職員面談の際などに確認しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減について、又は、契約社員や社会保険の加入について、希望等を聞き入れ、意欲や力（知力・体力・精神力）のあるものには、リーダーやその上を目指してもらおうよう、伝えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修に対象職員は参加できるよう調整しています。また、疑問点などがある場合は個別にて対応しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	多摩区グループホーム意見交換会に参加し施設間の行き来や電話による相談によりサービスの向上を図っています。介護いきいきフェアにもお手伝いとして参加し交流しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談の時や、ご家族様との面談の時にご家族様や本人に要望や不安ごとを聞き、入居後も、随時、傾聴を行ってケアに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に現在のご本人様の状態や不安な事の聞きとりを行っておりアセスメントにおとし職員と情報を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族の物理的精神的環境を考慮し、サービスにつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のADLに応じご本人様が無理なく出来る事などをご本人様と話し手伝っていただいております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い方への対応について、声掛けの仕方を相談したり、ご家族様の精神面の負担にならないよう御互いの状況を把握し本人と家族の要望に応じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に電話があった際に、聞こえるように、わかるように、コミュニケーションの支援を行っています。面会などきいていただき以前と同じ交流をしていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階2階の合同イベントや歩行訓練の際に他フロアとの交流にも努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方は、家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っています。また電話にてご連絡させていただき近況などを確認する場合があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中や、定期的にアセスメントを行い、現在の希望や意向を確認しケアプランに組み込んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も、利用していた担当ケアマネジャー、及び、家族や本人から情報をえて、今までの生活を継続できるよう習慣になっている事などは継続していただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時や状態変化の際にもモニタリングや評価を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やご家族様との面談、各フロアでの会議やモニタリング、アセスメントを行い、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、入居者の言葉や様子を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書の見直しを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の関係性やこれまでの生活暦等を考慮しています。かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整も図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の会員になっており、回覧板や町内会から情報を得ています。盆踊り大会への参加や、清掃活動等に参加することができました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時など医師が変更するがこれまでの医師に継続して診ていただき本人やご家族様が納得された段階で施設の訪問医へ変更しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りの際やケアの中で看護師としての意見を聞きケアの方法など相談し、個人記録に記入し、情報の共有を行い、受診や看護につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的に病院にお伺いし現在のご本人様の状況を相談員の方やケアマネージャーの方と医師、家族様と相談させていただき一番適した環境の移行への話し合いなどおこなっております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象の方がいらっしゃる場合は、その方にあった、急変時対応マニュアルを作成し、台所に掲示しています。又、どのような状態の時に悪化とするのかを明記し、職員に周知しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の中で急変時の手当や確認点などを看護師より説明し各所連絡手段などについては研修という形で説明しております。疑問点や不安点などを抽出し個々に説明しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの確認、定期的な防災訓練を実施、毎日の歩行訓練時などに避難ルートを歩いたり確認しています。地域の方にも災害時などの協力体制をおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。その方の生活歴や性格を考慮し、その方に合った言葉掛けや対応を心がけ自立支援のもと生活を支えていく事に気をつけています。タバコが吸いたいという利用者様		

			にはその方の生活暦や性格を考慮し、吸っていただいております。ご本人様達の性格を考慮し声掛け等変えております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	働きたいのか、散歩をしたいのか、または、のんびりと過ごしたいのか、伺いながら、行動を共にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を選ぶ際には、できるだけご自分で選んでいただいております。理美容に関してもご本人様から希望があった際は業者に連絡し切らせていただいております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や、後片付け、イベント時の調理を手伝っていただいております。盛り付けや配膳などご本人様の負担にならないように手伝っていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な飲水量、食事摂取量が確保できるよう、ご飯の盛り付けの調整や声掛けをおこなっています。その日によって変わる場合もありますのでご利用者様に配膳時に確認しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔ケアの注意点など訪問歯科が来た際などに確認し本人の口腔ケアに必要な部分などをお手伝いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ADLにより定時に声掛けをする方、パットを交換する方完全に自立の方などご利用者様にあった対応をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量の確認や日々の歩行訓練などをおこない、ヨーグルトなどが効果があるご利用者様についてはご家族様に持ってきていただいております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日はきまっているがその日によって入りたい日や入りたくない日もある為お声掛けする際に確認し入浴していただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者が、自由に居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、その時の状態観察を行ったり、本人に聞いてから、休息の支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が記載した往診記録の確認、又は、個人記録に添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行なっています。状態など変化した際は往診医に連絡し薬の変更がある場合があります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたむ仕事などや食事の時の盛り付けなど馴染みのある事を積極的に手伝っていただいております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日など1回2～3名で近隣を散歩しております。普段いけない場所に関してはイベントとして企画し外出を楽しんでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、施設でお支払いして、後ほどご請求させていただき立て替え金制度を利用しています。必要に応じてお金を持ちたい方に関しては、自己責任で小額のみお持ちいただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に帰りたいという訴えがあった時や用事があったときには、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	週に1度花を購入しその時期にあった花を飾っております。季節を感じていただく為に共有スペースなどの飾りつけもおこなっております。1階のテラスで休めるよう手作りの椅子などおいております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fの入居者と気の合う2Fの入居者のところへ、遊びに行き、気分転換を図っています。GHの相談室も場合により使用しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた、食器や家具を居室におき、なるべく、自宅に近い感覚で過ごしてもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の力量に合わせて、家事の継続を行っています現在では洗濯物干しやたたむ事などを手伝っていただいています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語のほりと

作成日 H27. 5. 30

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域とのかかわりを多くする	施設のイベントには地域の方にお知らせ地域包括支援センターへもお誘い伺いご案内する	イベント前にお知らせを作り配る。家族の方にも書類と一緒にご案内を同封する	今年度実施中
2	12	運営に関する利用者家族等の意見反映(特に外出レク)	実行できる形に職員と管理者で話し合い企画を立てる	近場で集める場所の検討 家族を誘いこんでのイベントを計画	今年度 毎月実施中
3	35	災害用備蓄のための倉庫と干エックリストの作成	倉庫は本社と話し合い 干エックリストは作成	話し合いを続けながらおはあるか 施設内場所を決め保管する。	今年度中に 実行したい。
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。